



実行委員会企画

山崎茂明先生に聞く： His Milestones and In Our Time

実行委員会企画にご登場いただくのは、医学情報サービス職の大先輩であり、MIS生みの親でもある山崎茂明先生です。MIS30周年の節目、そして現在先生が教鞭を執られる名古屋での開催ということで、実行委員一同、先生にはぜひ舞台へ上がっていただきたいと考えました。

研究課題に対する鋭い視点と真摯な姿勢で数々の素晴らしい業績を持つ先生ですが、先生の最大の魅力はMISの理念を体現するかのような、自由で大らかな佇まいです。今回はそんな先生の魅力をトークライブというMIS史上初の試みでみなさんにたっぷり味わっていただきます。

聞き手は、日本医学図書館協会の仕事などを通して名古屋の地から全国の医学情報サービス職に長年携わってこられた坪内政義さんです。

実行委員も、そして当のお二人も、この90分でどこへ向かうのか予測ができません。けれど、きっと先生のこれまでのMilestonesを皆で分かち合い、今を生きる私たちの時代が照らされるような時間になることでしょう。

(実行委員会企画担当：小嶋)

山崎先生から参加者へのメッセージ：遠くまであるいていこう

30年ほど前ですが、若い医学図書館員の方々と学術雑誌塾という勉強会を4、5年続け、成果を発表するために『学術雑誌塾報告』を刊行しました。その終刊号（1990年）の副題は「遠くまであるいていこう」でした。この言葉は、塾は終わりを迎えるが、私たちの歩行に終わりはなく、学びを活かしていこうというメッセージでした。MIS名古屋大会の参加者への言葉としたいと思います。

The title of this program was named after two great artist's works: Miles Davis's "Milestones" and Ernest Hemingway's "In Our Time".

自己紹介：山崎茂明 (Shigeaki Yamazaki)

1947年東京生まれ。1966年、都立鷺宮高校卒。1971年早稲田大学第一文学部(社会学)卒業。半年後の1971年10月に紀伊國屋書店(株)へ就職、横浜営業所に配属。1976年4月同社退職。鶴見大学夏季司書講習にて司書資格を得、1977年1月から埼玉医科大学附属図書館就職。1979年、勤務先の理解を得て、慶應義塾大学大学院図書館・情報学専攻修士課程へ進学。3年後1982年修士課程修了し、博士課程へ進学するとともに東京慈恵会医科大学医学情報センター(助手)へ就職。1986年同大学医学情報センター講師をへて、1998年愛知淑徳大学文学部図書館情報学科助教授、翌1999年同大学図書館情報学科教授。2010年、愛知淑徳大学人間情報学部教授。専門は、科学情報メディア論と科学コミュニケーション、特にレフェリーシステム、研究業績評価、研究発表倫理、19世紀医学ジャーナリズム形成史。

1989年夏、College of Physicians of Philadelphiaへ短期留学、アメリカ医学教育形成史についての実証的な調査を行った。1998年に、「計量文献学的手法による研究開発評価指標の研究及び生命科学分野へのその応用」で第33回科学技術情報振興賞(学術賞)を受賞。2001年「生命科学領域を対象にしたビブリオメトリックスによる研究評価指標の研究」で、博士(図書館情報学)愛知淑徳大学。

代表論文は、“Ranking Japan’s life science research” Nature 1994, “Academic origin of the first professors in American medical schools before the Civil War” Scientometrics 1991, “Referee system of 29 life science journals preferred by Japanese scientists” Scientometrics 1995, “Referee systems of English-language scientific journals in Japan” Scientometrics 1989, “学術雑誌のレフェリーシステム” 科学 1989, “論文発表からみた日本の生命科学” 科学 1991 など。著書は、「医学文献サーチガイド」(日本医書出版協会, 1996年), 「生命科学論文投稿ガイド」(中外医学社, 1996年)。「看護研究のための文献検索ガイド」(共著, 日本看護協会出版会, 1999年), 「EBMのための情報戦略」(共編著, 中外医学社, 2000年)。「研究評価」(共編著, 丸善, 2001年)。「科学者の不正行為」(丸善, 2002年)。「論文投稿のインフォマティクス」(中外医学社, 2003年)。「インパクトファクターを解き明かす」(情報科学技術協会, 2004年)。「ORI研究倫理入門」(翻訳: 丸善, 2005年)。「看護研究のための文献検索ガイド 第4版」(共著, 日本看護協会出版会, 2005年), 「パブリッシュ・オア・ペリッシュ」みすず書房(2007年), 「科学者の発表倫理」丸善出版(2013年)。

海外渡航歴は私的なものを除外して24回となる。1987年5月、東京慈恵会医科大学阿部学長の指示によるアメリカ医学図書館訪問調査を最初にして、6回の口頭発表(ポスター発表を含む)、17回の訪問調査、そのなかに1989年夏、College of Physicians of Philadelphiaへの短期留学を含む。講演活動は、研究のミスコンダクトと発表倫理を中心に、昨年は年12回、今年は24回を越えるペースで行っている。その他の社会活動は、「医学図書館」編集長を8年、「医学情報サービス研究大会」代表幹事を1992年から2009年の18年間担当した。趣味は、モダンジャズと海外美術館めぐり。